

2015年6月15日

子ども用の補助人工心臓、短期間で承認へ

重い心臓病の子どもに着けて心臓の働きを助ける医療機器、「補助人工心臓」について、厚生労働省は、医療上の必要性が特に高いとして通常より短い期間で審査を行い、国内で初めて承認することを決めました。

これは12日に開かれた厚生労働省の専門家会議で決まりました。

承認されるのは神戸市の医療機器販売会社が申請していたドイツ製の子ども用の補助人工心臓で、ポンプを使って体内に血液を送り出し、心臓の働きを助けます。

医療機器の承認審査には通常1年程度かかりますが、厚生労働省は今回、生命を維持するために欠かせず医療上の必要性が特に高いとして、およそ7か月間で審査を行いました。国内で子ども用の補助人工心臓が承認されるのは初めてです。

子ども用の補助人工心臓を巡っては、ことし1月、重い心臓病で移植手術を待っていた女の子が補助人工心臓を使えないまま脳死と判定され、女の子の両親が早期に承認するよう求めていました。

承認が決まった補助人工心臓は、保険適用が認められたあと医療現場で使用されることとなります。

以上